

スポーツ・オリンピック学学位プログラム（博士前期課程）

Master's Program in Sport and Olympic Studies

- 修士（スポーツ・オリンピック学）
- Master of Arts in Sport and Olympic Studies

人材養成目的 / Program Educational Objectives

これからの国際的スポーツ分野において必要とされる、高いマネジメント能力とスポーツのインテグリティ（高潔さ）を追究することができる人材養成を目的とする。国際オリンピック委員会、また国際競技連盟とも連携して今後求められるスポーツ人材の養成に当たる。

養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> - 21世紀のスポーツ界で必要とされる先端的な知識を総合的に学び、高いマネジメント能力を活かして、社会におけるスポーツの価値を創造し、世界各地でリーダーシップを発揮できる人材 - IOC、IPC、JOC、JPC、JSC、JADA などと連携し、スポーツのインテグリティを踏まえたオリンピック・パラリンピック教育と最先端のスポーツ科学を学び、それぞれの現場に応用できるマネジメント力を習得した人材
修了後の進路	各国スポーツ庁、各国オリンピック委員会・パラリンピック委員会、IOC や IPC、国際競技連盟などのスポーツ組織や大会組織委員会、グローバルスポーツ関連企業など

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士（スポーツ・オリンピック学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	①研究等を通じて知を社会に役立てた（または役立てようとしている）か ②幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	研究指導科目、インターンシップ科目、修士論文作成、学会発表など
	2. マネジメント能力：広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	①大きな課題に対して計画的に対応することができるか ②複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、学会発表など
	3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	①研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ②研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、学会発表など
	4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	①チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ②自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	研究指導科目、演習科目、学会での質問、セミナーでの質問など
	5. 国際性：国際社会に貢献する意識	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ②国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、国外での活動経験など
	6. オリンピック・パラリンピック学の理解：オリンピックやパラリンピックの価値とその社会的役割について理解する能力	①オリンピックやパラリンピックの歴史とそれらの価値についての理解力 ②それらの社会的役割について展開できる能力	Olympic Movement Studies、Olympic and Paralympic History、修士論文作成

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	7. 対応する主な学修：体育・スポーツ・健康の学問におけるオリンピック学の課題や今後の活かし方を展望する能力	スポーツ諸科学におけるスポーツ・オリンピック学の位置付けについて俯瞰できる能力	Anti-Doping、Sport Technology、Biomechanics、and Exercise Physiology、修士論文作成
	8. 日本文化理解力：武道・日本文化に対する理解力と英語を基礎にしたコミュニケーション能力	① 武道やマナーなど日本文化を理解し、それを各地に展開できる能力 ② 英語を通して武道や日本文化を伝える事ができる能力	Budo、Japanese Culture、Cross-Cultural Communication
	9. スポーツ・オリンピック学の展開力：グローバルな俯瞰力と地域社会で生活する人々へのまなざしをもつグローバルなマネジメント力	各国におけるオリンピック教育やスポーツイベントをマネジメントする能力	Internship、International Sport Event Management、Elite Sport Coaching

<p>学修成果の 評価に関する 方針</p>	<p>学修成果の評価は「達成度評価表」に基づく達成度評価によって以下の段階毎に学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を客観的に確認し評価する。達成度評価の段階・方法を以下に示す。</p> <p>第1段階（1年次春学期）：提出された達成度評価表に基づき、教育課程委員会が評価した後、教育会議において全教員で達成度評価を行う。</p> <p>第2段階（2年次秋学期）：提出された達成度評価表に基づき、教育課程委員会が評価した後、教育会議において全教員で達成度評価を行う。</p> <p>第3段階（2年次春学期末）：</p> <p>1) 修士論文研究審査会において、全研究指導担当教員がルーブリックに基づき第3段階達成度審査を行う。</p> <p>2) その後、主査および副査2名以上で構成される学位論文審査委員会において、ルーブリックに基づき審査を行い、教育会議において全教員で最終達成度審査を行う。</p> <p>各段階に係る科目や審査会での具体的評価内容は次のとおりである。</p> <p>①研究指導科目、インターンシップ科目、修士論文作成、学会発表などを通して、知識を社会に役立てようとしているか、専門分野以外でも問題を発見することができるかについて、記述内容や発表内容の具体性に基づいて評価する。</p> <p>②研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、学会発表などを通して、課題に対する計画的対応、複数の視点からの問題把握とその解決に基づいて評価する。</p> <p>③研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、学会発表などを通して、研究等の実施に対する円滑なコミュニケーションや異分野の人に対する説明の明快さに基づいて評価する。</p> <p>④研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、学会での質問、セミナーでの質問などを通して、チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験、自身の研究以外のプロジェクト等の推進に対する貢献に基づいて評価する。</p> <p>⑤研究指導科目、演習科目、インターンシップ科目、海外での活動経験などを通して、国際貢献活動に対する意識や国際的な情報収集や行動に必要な語学力に基づいて評価する。</p> <p>⑥Olympic Movement Studies、Olympic and Paralympic History、修士論文作成を通して、オリンピックやパラリンピックの歴史とそれらの価値についての理解力やそれらの社会的役割に関する展開に基づいて評価する。</p> <p>⑦Anti-Doping、Sport Technology、Biomechanics、and Exercise Physiology、修士論文作成を通して、スポーツ諸科学におけるスポーツ・オリンピック学の位置づけの俯瞰の仕方に基づいて評価する。</p> <p>⑧Budo、Japanese Culture、Cross-Cultural Communication を通して、日本文化の理解とその展開や英語を通して武道や日本文化の伝達に基づいて評価する。</p>
---------------------------------------	--

学位論文に関する評価の基準	<p><修士論文></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の内容がスポーツ・オリンピック学分野の学問的発展に寄与するものであること。 2. 研究の意義、目的が明瞭で、適切な研究方法を用いて結果を導いていること。 3. 先行研究が十分検討されていること。 4. 論文を通して執筆の表記や書き方が適切であること。 5. 研究の過程において、倫理的な問題がないこと。 <p>[審査方法及び審査体制]</p> <p>審査方法は論文を最終試験として口頭で発表し、それについて当学位プログラム担当3人が審査の基準に沿って点数で評価する。平均点 60 点以上を合格とする。</p>
----------------------	---

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

体育・スポーツ学、コーチング学、健康科学の3領域における研究力・専門知識・倫理観とともに、オリンピック・パラリンピックムーブメントやスポーツマネジメントにおける幅広い基礎的教養、武道やスポーツ科学にわたる広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。

教育課程の編成方針	<p>学生は4分野（オリンピック・パラリンピック教育、スポーツマネジメント、スポーツ医科学、ティーチング・コーチング・日本文化）の何れかに所属し、それぞれの演習を履修する。</p> <p>学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、研究群共通科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から1単位を履修することを推奨する。研究指導においては、複眼的視野をもった研究能力の育成のために複数指導体制（必要に応じた他学位プログラムの教員も参画）とする。具体的な履修科目や副指導教員の配置は、個々の学生の研究計画やキャリアプラン等を踏まえて決定する。</p> <p>オリビズムやスポーツの価値、日本文化などを理解し修得する専門基礎科目として11単位を必修として配置する。</p> <p>武道・日本文化に対する理解力と英語を基礎にしたコミュニケーション能力、グローバルな俯瞰力と地域社会で生活する人々へのまなざしを持つグローバルな実践力・マネジメント力を達成するために、共通専門科目を配置し、4週間程度のインターンシップを課す。また、外部から研究者や実務者を招いた講義や演習を通して、高度専門職業人としてのマネジメント能力やコミュニケーション力を身に付ける。国内のスポーツ組織や関連学会・研究会における積極的な参加・発表も推奨する。</p>
学修の方法 特色的な教育	<p>入学と同時に、学生の希望と将来の進路を考え、4分野（オリンピック・パラリンピック教育、スポーツマネジメント、スポーツ医科学、ティーチング・コーチング・日本文化）の何れかに振り分けると同時に、指導教員も決定する。指導教員および副指導教員と相談し、研究群共通科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目および専門基礎科目（必修）11単位、専門分野（演習）4単位、専門科目（共通）8単位、専門科目（専門分野）6～9単位から、合計30単位以上を修得し、修士論文を作成する。インターンシップ先は本人の希望に基づき、指導教員と相談の上、インターンシップ委員会にはかって決定する。</p>

入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p>求める人材</p>	<p>次のような熱意と資質を持つ者を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリンピック・パラリンピックに関する基礎知識を持ち、スポーツのインテグリティを進展させることに対して意欲・使命感を持つ者 2. スポーツ・体育・健康に関連した学問に関する基礎的知識を持ち、スポーツに関わる実務経験（スポーツ実践、コーチングなど指導、イベントマネジメントなどの経験）のある者 3. オリンピック・パラリンピック教育やスポーツマネジメントに関心のある者 4. 英語によるコミュニケーション能力があり、協力して成し遂げることの大切さや公正さについて理解している者
<p>入学者選抜方針</p>	<p>一般選抜のみを行う。前年4月に Web で募集要項を公開する。Web での出願を前年12月初旬から12月中旬までとし、志望動機や研究計画などの書類を受け付ける。1月下旬に入試（口述試験）を行い、書類審査との総合点（400点満点）で合否を判定する。書類審査では、志望動機、研究計画、これまでの経験などについて評価する（審査員の平均で100点満点）。口述試験では、志望動機、研究計画、スポーツ・オリンピック学に関する基礎的知識、英語などコミュニケーション力の合計点（審査員の合計で300点満点）で評価する。</p>

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p>学修支援</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 指導教員によるライティングサポートやプレゼンテーション指導を行っている。 ② 修士論文中間報告会を通じてプレゼンテーションや質疑応答の機会を提供している。 ③ 外部講師との交流において、プレゼンテーション指導や助言の機会を提供している。
<p>学生同士の交流機会</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 修士論文中間報告会や修士論文最終試験の終了後に交流会を開催し、交流機会を設ける。 ② 2学年の全学生が1つの学生控室にて研究活動を行う環境を提供しており、学生同士の自発的な交流が可能になっている。
<p>教員との交流機会</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 外部講師を招いて実施するセミナーや SHED セミナー（Sport/Shared Educational Development Seminar）などを活用し、その場での意見交換や終了後の交流会を開催することにより、指導教員以外の教員と交流する機会を創出している。

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- ① ファカルティ・ディベロップメント委員が企画する FD フォーラムにおいて、達成度評価結果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証し、課題の抽出や教育方法に関する情報交換などを行う。
- ② 人間総合科学学術院等が主催する FD セミナーへの参加の呼びかけと参加により、教育方法に関する情報を取得し、自らの教育方法の改善を各授業に反映させる。